

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500029		
法人名	合資会社 オープンハート		
事業所名	グループホーム 美優さくらんぼ ユニット海		
所在地	〒046-0003 余市郡余市町黒川町13丁目36-14		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「日々の暮らしの中でその人らしくいつまでも尊厳のある心豊かで安らかな生活が送れるよう目指します。」の理念の元、職員研修を行い、常に利用者様を自分の家族と思い日々の生活の中で安心、安全に暮らせるよう支援しております。又、利用者様の体内リズムを整えること、楽しみながらのリハビリを重視し、日中の活動・散歩を増やすことや、レクリエーションに力を入れております。ホーム内で行うレクリエーションでは、利用者様が興味を持って参加できるよう工夫しております。年に数回は季節に合った外出や、温泉旅行などで楽しんで頂いております。2ヶ月に1度の運営推進会議では、利用者様、ご家族、区会長、地域住民の方々、行政等参加して頂き、ホームの看護師による高齢者に関わる病気や感染症の勉強会を行ったりと、グループホーム美優さくらんぼの理解と発展、向上を目指し努力させて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigocho.net/hokkaido.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0172500290&amp;SCD=320">http://system.kaigocho.net/hokkaido.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0172500290&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでる2・7 4階		
訪問調査日	平成22年10月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR余市駅に近く、住宅街にあり交通の利便性が良い。グループホームとして新築設計され全てバリアフリーで消火設備・エレベーター等、安全への配慮が来ている。洗面所・トイレ部分で繋がっており、左右どちらからでも通れるようになっていて開放感があり、明るく暮らしやすい造りとなっている。代表者は職員の資質向上を図る為、研修参加や資格取得を薦めている。職員間のコミュニケーションが良く、気楽に話し合える職場環境が事業所運営に反映され、ケアサービスの向上に繋がっている。地域への啓発に積極的に取り組み、運営推進会議への出席や避難訓練の協力体制、近隣の方が事業所を訪問される等、地域密着型サービスの実践に努めている。利用者の日々が豊かで張り合いのある暮らしとなるように、敷地内で花作りや畑での収穫を楽しみ、年間計画により外出の機会を多く取り入れている。毎月の協力医療機関の往診・24時間対応の看護師の確保、管理栄養士によるカロリー計算された献立等、利用者の医療や健康面での安心がある。毎月発行のホーム便り「さくらんぼ新聞」には行事などでの利用者の写真を掲載し、同封のケアプランを確認して返信用封筒で送付してもらう等、家族とは連携を密にして、意見・要望の反映に努めている。代表者・職員と利用者は家族のように静かでゆったりとした時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って職員間で理解を共有出来るように新人研修や研修で取り組んでいる。	法人理念を踏まえ、尊厳と安らぎのある暮らしの継続を目指す独自理念を作りあげ、カンファレンスやミーティング等で共有を図り、理念を具現化したサービスの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店への買い物や理容室を利用したり、運営推進会議を通し理解して頂けるように取り組んでいる。	地域への啓発に積極的に取り組み、区会の一員として夏祭りに参加したり、近隣の方が訪問されるなど、地域住民とは良好な双方向的交流を実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で看護師による認知症高齢者に多い疾患あるいは、流行している病気等や緊急時の対応の講習を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に一回実施し、ご家族・地域住民の意見を取り入れ、サービスの向上に活かしております。	利用者・家族・地域住民などの参加で定期的に開催されている。利用者の暮らしぶりや評価結果などを報告して話し合い、サービス向上や課題改善への意見・要望・助言をもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報の交流を行いながら市町村各担当者に連絡、報告、相談を行い、サービスに向上に取り組んでおります。	町の担当者とは報告・相談などで連携を図り、事業所の実情を伝えながら意見や指導を受けサービス向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職種の全職員がいかなる状況であっても身体拘束をしない介護に取り組んでいる。特に言葉遣い、声掛け、態度には注意を払っている。	虐待防止マニュアルを作成し、内部・外部の研修に参加して、全職員が身体拘束の弊害を認識し、家族の意見も取り入れながら利用者の自由と安全を確保するケアサービスの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止には日々注意を払い努めており、日々の言葉遣いや態度に配慮し入居されている方が、もし自分の親だったらと全職員が自分に問い返しながら利用者の介護にあたっております。		

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット海)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修には参加は行っているが、内部においては、行っていないため、直ちに内部研修を開き制度を理解出来る様に取り組みます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に十分な説明を行い、家族・利用者からの理解・納得を得ております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・苦情受付表を設置しております。又運営推進会議等のご意見・要望に関しては、直ちに対応し運営に反映させております。	家族の訪問が多く、職員とのコミュニケーションが良好で来訪時には話し易い関係作りが構築されている。事業所玄関にはご意見箱を設置し、苦情相談窓口が運営規定等に記載され、適切に対応されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにて話し合いを行い運営に反映されるように努めております。	毎月のケアカンファレンスとミーティングを全職員で行い、意見の出しやすい体制を作って運営やサービス向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週2回訪問し、個々の勤務状況を把握し向上心を持って働けるよう、助言・アドバイスを行い、サポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対して職員全員が業務内容を指導している。新人研修や法人内の研修を行いトレーニングしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	余市町グループホーム連絡協議会主催の勉強会や研修には参加しております。同業者との交流もできており、サービスの向上に反映しております。		

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット海)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居日前にご本人やご家族と話し合う機会を設け、ご本人が安心して生活が出来る様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日前に何度も話し合いの場を設け、ご家族の思いに耳を傾け信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人との話し合いやご本人の様子、医師等の意見などを参考にして必要な支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がこれまで築かれてきた人生を大切に、職員と本人が共に助け合いながら生活を楽しめるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族が良い関係を保てるよう、訪問しやすい環境作りや、日々の情報提供など連携に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得たり、ご本人のお話を聴き、出来るだけ継続できるように支援している。	利用者の行き慣れた理・美容院に通ったり、友人・知人の来訪や墓参り・祭りに出かけるなど、これまでの暮らしの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの状態の把握に努め、職員の適切な声掛け、誘いにより、利用者同士が関わりあえる機会を作っている。		



グループホーム美優さくらんぼ(ユニット海)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わっても必要に応じて本人・家族のフォローをし、相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を、ご本人の話を傾聴する事により十分把握し、努めています。又困難な場合はご家族に相談しながら本人本位に検討している。	日々の会話や行動・表情から、一人ひとりの希望や思いを把握する事に努め、その人らしく暮らせるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	ご家族様からの情報やご本人との会話の中から把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当スタッフが、それぞれカンファレンスの中で意見交換を行ったり、申し送りなどで情報を共有し、一人ひとりの現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の希望を基に職員全員がアセスメントを共有しカンファレンスの中から意見を介護計画に反映できるよう作成し努めている。	毎月のケアカンファレンスとモニタリングでは、担当制を活用し計画作成者等と情報を共有して話し合い、状態の変化や本人・家族の意見を反映した介護計画作成と3カ月ごとの見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンを使用し日々の様子やケアの実践結果を個別に記録しています。状態の変化が合った場合はケア計画の見直しや対応が出来る様申し送りノートを活用し職員間で情報を共有出来るよう行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望や変化の合ったときには、その状況に応じてご家族と話し合いを行ったりと柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方が人形作り等訪問して行ったださっております。又、消防署とも連携を密にし、講習会等参加しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診に来てくれるかかりつけ医を確保している。当事業所の看護師も確保し、週2回支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医受診としている。月1回は協力医療機関医師による往診の実施・常勤看護師の24時間対応の体制が出来ている。	

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット海)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護師に日々の情報の提供を行い適切な対応を行えるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の状態を把握し、病院関係者と相談を行いながら、連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期のあり方についてご本人、ご家族等と話し合いをしています。又、医師とも相談・連携を取り、全員で方針を共有している。	入居契約時には重度化・終末期について文書と口頭で説明し、対応方針を話し合っている。状態の変化に応じて医師・家族等と連携しながら情報の共有を図り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防の救急講習への参加を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行うと共に日頃から地域の方々に対して協力の働きかけをしている。	年2回の昼夜を想定した消防避難訓練は地域住民も参加して実施し、協力体制が築かれている。消火設備が完備され、緊急警報装置や連絡網体制が綿密にシミュレーションされている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを尊重しプライバシーに配慮した対応、言葉掛けに努めています。	事業所理念に「尊厳ある暮らし・・」とあるように、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応を実践している。	各利用者の誇りを大切にしているが、トイレ内の棚には名前入りのオムツの袋が積まれている。インシヤル化するなどプライバシーに配慮するのが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のペースに合わせ、職員はゆっくり・はっきりと笑顔で対応し、自己決定が出来る様な言葉掛けを行い、思いや希望に添うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態やペースに合わせ、散歩・買い物やレクレーションなど、どのように何をしたいか希望に添って支援出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いきつけのお店がある方は洋服等の買い物や理美容室等に行っていただくよう支援しております。		

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット海)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、盛り付け、配膳、食器洗い、テーブル拭き等その人の出来ることを声掛けにて職員と一緒に出来るよう支援をしています。	日々の食事を楽しく・美味しく、と季節感や年中行事・嗜好を考慮し、調理・配膳・下膳などで個々に力を発揮してもらい、体調や誤嚥などにも配慮して共に食卓を囲んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量、食事を記録し、確保できるように好みや希望を取り入れた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア	毎食後利用者様に声掛けをし口腔ケアを誘導したり介助をし状況に合わせて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし一人ひとりの力や排泄パターンや習慣を活かして気持ちよく排泄できるようトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	利用者の習慣・パターンの把握やトイレ誘導等トイレでの排泄を目標として自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前にはラジオ体操、散歩・歩行運動、午後からはリハビリ体操を、楽しみながら身体を動かして頂き、又便秘症の方には排便チェック表にて確認をし水分が不足しないよう声掛けをし提供しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様全員が気持ちよく入浴できるよう希望やタイミングに合わせて入浴支援している。	入浴日や時間に決まりはなく、利用者の希望に沿って体調を考慮し支援している。入浴チェック表により定期的な入浴にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや体操の参加を促し、身体を動かして夜間安眠できるよう支援し、又個人の体調を考慮し、休憩やお昼寝できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様一人ひとりが服薬されている薬について理解し変化があった場合は直ちに報告し指示を受ける体制がとられている。服薬の支援は職員2名で薬袋の名前・日付を声に出しチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割作りや協力できる場面作りなどで張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援し、利用者様一人ひとりの出来る事、興味や得意な事等をレクリエーションに取り入れたり気分転換を図っている。		

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット海)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やお祭り等一人ひとりの希望に添って外出して頂ける様職員間で協力したりご家族と連絡を取りながら取り組んでおります。	年間計画による外出行事の他、利用者の希望や体調に応じて散歩・買い物等に出かけている。地域の協力を得て墓参りや祭り見物など支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際や買い物の支払い時、ご本人へお渡しし支援させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望がある時は電話をかける等希望に添う支援をしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天候・状況に合わせて、窓を開けたり、空気清浄器・除湿機・換気扇等使用し、快適な空間が保てるよう配慮しています。又さくらんぼ新聞や利用者様と一緒に季節に合わせてちぎり絵等を制作しリビングに飾っております。	新築の建物は全てバリアフリーとなっており、左右どちらからでも通れるようになっていて開放感があり、居間のソファや食卓がゆったりと配置され個々に寛いで過ごす事が出来る。スナップ写真や手作り品を飾り生活観のある居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ食卓テーブルやソファなどで職員を交えながら思い思い過ごして頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、自宅で使用されていた馴染みの家具等を持ち込んでいただき又、写真や小物などお気に入りの物を置いて頂いております。	利用者の使い慣れた身の回り品やテレビ・仏壇などを持ち込み、趣味の作品や写真などを飾ってその人らしく自由に落ち着いて過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」や「わかること」をアプランにて職員全員が把握し支援している。バリアフリーで、廊下・トイレ・お風呂・階段等には手すりを設置し、車椅子でも手押し車でも安全安心に移動できるよう、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500290		
法人名	合資会社 オープンハート		
事業所名	グループホーム 美優さくらんぼ ユニット空		
所在地	〒046-0003 余市郡余市町黒川町13丁目36-14		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境と地域住民との交流の下で、安らぎと喜びのある暮らしを送って頂く為の環境作りを目指しています。ホーム内も、居間のゆったり落ち着いた広さ、洗面所、浴室など利用者様には快適な居住空間となっております、又採光も考慮し、明るく衛生的な環境が整っています。毎朝ラジオ体操をした後は天気の様子を見ながら散歩に行き体内リズムを整えることで夜間安眠出来るよう心掛けております。散歩時は地域の方々や挨拶を交わし交流を深めています。利用者様を自分の家族と思いつつ日々の生活の中で安心、安全に暮らせるよう支援しております。又、季節に合わせた行事やレクリエーションにも力を入れており、お誕生会にはご本人の希望を伺い、食事メニューを作っております。2ヶ月に1度運営推進会議を開き、ご家族、区会長、地域住民の方々、行政等参加して頂き、ホームの看護師による高齢者に関わる病気や感染症の勉強会を行ったりと、グループホームの発展、向上を目指し努力させて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでる2・7 4階		
訪問調査日	平成22年10月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域住民との交流の下」の役割を盛り込まれた理念を共有し実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の散歩時などにお声をかけさせて頂き、皆様で世間話をしたり、遊びに来てくださる方や野菜を頂いたりと交流も増えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では看護師による熱中症についての勉強会を実施したり、プリントを配布し、災害時などが起きた場合の支援についての講習を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に一度実施しておりますが、ご家族様、ご近所様の意見を聞きサービス向上に活かせるよう取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡・報告・相談を欠かさず、協力関係を築けるように取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止マニュアルを職員全員が理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアル(プリント)を常に身近に置き、職員全員が目を通し、利用者様の状態を把握した上で話し合いを行い、防止に努めています。		

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット空)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間で勉強会を開き、制度を理解できるように取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に十分な説明を行い、理解・納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入り口に、ご意見箱を設置し、いつでも記入して頂ける様にしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス・ミーティングにて職員の意見などを聞き、運営に反映されるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週2回訪問し、個々職員の勤務状況を把握し、向上心を持って働けるサポートをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対して、全員が業務内容を指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度より、余市町にグループホーム連絡協議会が設立され、同業者との交流を促進し、よりよいサービス向上を目指し、それに繋げるよう取り組んでいます。		

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット空)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	日常の行動の把握をし、ゆっくりと時間をかけて会話が出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始前にアセスメントを取り、ご家族、ご本人の不安なこと・困っていること・要望等を時間をかけてお聴きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等や話し合いにて、今何が必要か見極めて支援をしております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の日常の中で、利用者様にいろいろと昔話を聞き教えられたり、一緒に掃除や料理作りをしているいろいろと教わる機会を作っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際等にご本人の状況を伝えることや、レクリエーション、運営推進会議等参加して頂き職員もご家族と共にご本人を支えていく関係を築いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が昔から通われていた馴染みの床屋さんへお連れしたり、年賀状や暑中見舞い等送れるよう支援しております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、利用者様同士がコミュニケーションが図れるような場所の確保や、職員も間に入り対応しております。		



グループホーム美優さくらんぼ(ユニット空)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じてご家族様やご本人とはお付き合いをさせて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の訴えや要望、会話に十分に耳を傾け話を聴き、一人ひとりの希望に答えられるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	一人ひとり、馴染みの家具や、今まで使っていた生活用品をお持ち頂き、馴染みの暮らし方が出来るよう把握に努めて		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や利用者申し送りノート、職員連絡ノート等により全職員が心身状態を把握し、出来る事をして頂く様に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人、職員と、それぞれに話し合い意見やアイデア、要望を反映し、現状に即した介護計画を作成しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンを使用し日々の様子・状態などを個別に記録しています。申し送りノート等を活用しながら変化のあった場合にはケア計画の見直しを行い、職員間で情報を共有し取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望や変化があった時には、その状況に応じて連絡を密に行い、家族からの要望ももちろん話し合い、要望に応じ柔軟な支援を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々が畑で取れた野菜や苗を持ってきて下さったり、運営推進会議に参加して下さり安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回定期的に往診に来て下さるかかりつけ医を確保しています。		

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット空)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護師を確保のもと状態や変化を報告し相談しながら看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態を把握し、病院関係者と相談を行いながら連携に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時にご家族、ご本人と話し合いを行い、医師とも相談させて頂きながら連携を図れるよう地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署にて開催している救命救急の講習へ参加し、全職員が急変時に対応できるように備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防の避難訓練を行い、また余市グループホーム連絡会や運営推進会議の際にも避難訓練や救急救命を行い地域の方々にも参加して頂き協力体制を築いています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応には十分に気をつけるよう職員同士理解し対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のペースに合わせ、ゆっくりはっきり笑顔で自己決定出来るような言葉かけを行い希望や意志を尊重し思いにそうよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、散歩・買い物やレクリエーションなど、どのように何をしたいか希望に添って支援できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの店がある方はその店に行き理美容や洋服を買えるように支援しています。		

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット空)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事を作り、準備から後片づけ、食器洗いとそれぞれが出来ることを支援しながら行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量・食事摂取量を一人ひとり記録し、確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア	利用者の状態に合わせて声掛けや見守り介助を行い、口腔内をチェックし清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの方の排泄パターンを把握し声掛けの元誘導させて頂くなど自立にむけた支援を行わせて頂いています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、午前はラジオ体操を行い、午後からリハビリ体操を行っています。便秘症の方には水分を多く採っていただくなど予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせ、皆様が全員入浴出来るように、チェック表をつけ対応できるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーションや体操の参加、散歩等の声掛けをし、身体を動かして夜間安眠できるよう、又、個人の体調を考慮し、休憩やお昼寝出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが服用されている薬について理解し変化があった場合は、直ちに報告し指示を受ける体制をとっています。服薬の支援は職員2名で薬袋の名前・日付を声にだしチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活上、出来ることは声掛けをし、積極的にして頂いております。又、一人ひとりに合ったホーム内の役割を持ち、支援させて頂いております。		

グループホーム美優さくらんぼ(ユニット空)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お買い物に同行したり、天気の良い日には散歩に出かけています。お墓参り等も家族や地域の人々と協力しながら出かけております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒にお買い物へ出かけた際には、付き添わせて頂きながら利用者ご本人が会計をして頂けるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば手紙や電話でご家族などへのやりとりが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの旅行時の写真や利用者と一緒に作った貼り絵(季節に合わせた)を貼ったりなど生活感のある空間であるように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自室で過ごされたいり、利用者同士ではソファや椅子で一緒に過ごす事の出来るよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で試用されていた家具などを持ち込んで頂き、又写真や小物などなじみのある物を置かれております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下・トイレ・お風呂・階段等には手すりを設置し又、エレベーターも設置し、出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫しています。		